

## 子どもの安全のための防犯リーダーの指導力規準・基準

| 領域           |                   | コード | 規 準                                  |
|--------------|-------------------|-----|--------------------------------------|
| 大項目          | 中項目               |     |                                      |
| 防犯活動の意義と目的   | 防犯に関する施策の理解       | 11  | a 国や自治体の防犯対策や施策・事業についての現状を理解している。    |
|              |                   |     | b 地域の防犯対策や施策・事業についての現状を理解している。       |
|              | 地域の特性と防犯対策の理解     | 12  | a 自分の住んでいる地域の特性を把握している。              |
|              |                   |     | b 地域の特性に対する課題や問題を理解している。             |
|              | 防犯活動のための環境の整備     | 13  | a 地域の課題や問題の解決に積極的に取り組むことができる。        |
|              |                   |     | b 防犯活動に取り組みやすい環境作りに取り組むことができる。       |
| 子どもの防犯に関する知識 | 防犯の種類と特徴          | 21  | a 子どもが巻き込まれやすい犯罪の種類や特徴，手口を理解している。    |
|              |                   |     | b 防犯のポイントについて，地域住民や子どもたちに説明することができる。 |
|              | 防犯器具等に関する一般的な基礎知識 | 22  | a 防犯に関する機器や道具の特徴や特性，有効性などを理解している。    |
|              |                   |     | a 家庭で行う防犯対策の方法を理解している。               |
|              | 家庭における防犯          | 23  | a 家庭で行う防犯対策の方法を理解している。               |
|              |                   |     | b 建物の種類や特性に応じた対策を理解し説明できる。           |

| 基準（具体的な内容）   |   |
|--|---|
| 防犯指導リーダー（地域で指導できる）   |   |
| ①自治体の「防犯条例」,「安心・安全まちづくり条例」などの有無や内容について知っている。<br>②国内の防犯活動の具体例を知っている。  | p.62～63   |
| ①地域の特性に応じた防犯対策について説明できる。<br>②自分の住んでいる地域でどのような防犯活動が行われているか知っている。  | p.30～31   |
| ①住宅街, 商店街, 学校などのおおよその位置を把握している。<br>②地域の人口や世帯数, 小学校児童数等を把握している。<br>③地域において犯罪が起こりやすい場所を具体的に把握している。<br>④地域の危険な場所と安全な場所を具体的に把握している。<br>⑤子どもの行動範囲や遊び場を把握している。(放課後預かり施設など)   | p.30～31<br>p.30～31<br>p.24～25<br>p.24～25            |
| ①住宅街や商店街などの特性と防犯上の課題について説明できる。   |   |
| ①地域の課題や問題の発見のために協力することができる。<br>②地域の課題や問題に対する取り組みに参加することができる。   | p.30～31<br>p.30～31                                  |
| ①防犯活動がしやすい環境について事例を説明できる。<br>②子どもが相談しやすい地域づくりについて説明できる。  |   |
| ①子どもが巻き込まれている犯罪の種類を知っている。<br>②過去に起きた犯罪などを調べることができる。<br>③子どもがターゲットとなりやすい犯罪の手口について知っている。   | p.16～17<br>p.16～17                                  |
| ①子どもが被害者となる犯罪が発生しやすい時間帯を知っている。<br>②防犯を目的とした様々なマップの用途や効用を説明できる。(地域安全マップと犯罪発生マップの違いについてなど)<br>③「いかのおすし」などの標語について説明できる。   | p.12～13<br>p.26～29<br>p.12～13                       |
| ①防犯機器や防犯グッズの種類と機能の概要を知っている。<br>②防犯協会推奨商品のポイントや警察庁推奨の音の大きさなどについて理解している。<br>③防犯ブザーの長所・短所, 有効な場所などについて説明できる。<br>④防犯ブザーを利用するときの注意点や管理方法等について指導できる。<br>⑤防犯カメラの有効性について説明できる。 | p.58～61<br>p.18～21<br>p.18～21<br>p.18～21<br>p.58～61 |
| ①子どもの留守番の危険性について説明し, 注意点を指導できる。<br>②留守番中の適切な来客対応・電話対応について, 注意点を指導できる。<br>③不審電話などへの対処法を指導できる。<br>④子どもが家に入る際の注意点を指導できる。  | p.22～23<br>p.22～23<br>p.22～23<br>p.12～13, p.22～23   |
| ①子どもの目線に立って, 建物とその周辺の危険な場所が判断できる。<br>②マンション, 団地などの集合住宅での安全確保について説明できる。<br>③エレベーターの安全な乗り方について説明できる。   | p.26～29<br>p.24～25                                  |

※「基準」の欄のページは、本文のページ数を示しています。

| 領域           |                 | コード | 規 準   |
|--------------|-----------------|-----|---|
| 大項目          | 中項目             |     |   |
| 子どもの防犯に関する知識 | 戸外における防犯        | 24  | a 登下校時などの子どもの安全に関する活動の効果と実施方法について指導できる。           |
|              |                 |     | b 地域の地理などの特性を理解し、防犯のポイントが説明できる。                   |
|              | 学校における防犯        | 25  | a 学校の特性に応じた防犯対策について理解している。                        |
|              |                 |     | b 学校で実施されている防犯の研修内容について理解している。                    |
|              | 子どもの理解とアフターケア   | 26  | a 子どもの発達段階や心理などについて理解している。                        |
|              |                 |     | b 子どもへのカウンセリングの実際について理解し指導できる。                    |
| 組織間の連携       | 地域、学校、警察の連携     | 31  | a 地域、学校、警察の相互連携の事例や課題、方法を理解し説明できる。                |
|              |                 |     | b 地域の特性を踏まえ、地域、学校、警察の相互連携ができる。                    |
|              | 連携のためのコミュニケーション | 32  | a 地域の特性を理解しながら、地域、学校、警察、保護者の連携のために積極的に活動することができる。 |
| 地域活動の推進      | 防犯パトロール         | 41  | a 自主防犯活動に対する適切な指導・助言を行うことができる。                    |

| 基準（具体的な内容）  |         |
|---|---------|
| 防犯指導リーダー（地域で指導できる）                                    |         |
| ①登下校時に注意するポイントについて具体的な指導ができる。                         | p.10～11 |
| ②登下校時の見守り活動が必要な箇所を把握している。                             | p.10～11 |
| ③通学路やスクールゾーンにおける危険箇所を把握し、点検できる。                       | p.12～13 |
| ①助けを呼んでも聞こえない場所を具体的に把握している。                           |         |
| ②犯罪者が「動きやすく」「見えにくい」時間について説明できる。                       |         |
| ③駐車場や空き地・資材置き場などでの安全確保について説明できる。                      | p.24～25 |
| ④公園やその他の遊び場で注意するポイントについて具体的に指導できる。                    | p.24～25 |
| ⑤駅周辺や繁華街・商店街などでの安全確保について説明できる。                        |         |
| ⑥「危険な道」について具体的に説明できる。                                 | p.24～25 |
| ①校内で犯罪が発生した場合の避難の方法について具体的に説明できる。                     |         |
| ②学校で行われている防犯対策や防犯訓練の内容を知っている。                         | p.32～33 |
| ③学校で配布された防犯グッズを知っている。                                 |         |
| ④校内に設置されている防犯器具とその設置場所を知っている。                         |         |
| ⑤学校に不審者が侵入したときの対処法を説明できる。                             |         |
| ⑥学校に不審者が侵入したとき、不審者を子どもに近づけないような対策をとることができる。           |         |
| ①学校で子どもたちが指導されている防犯に関する内容を知っている。                      | p.32～33 |
| ②学校で利用されている防犯に関する道具の使い方が説明できる。                        | p.58～61 |
| ①子どもたちの一般的な生活のサイクルを知っている。                             |         |
| ②子どもの心理状態を適切に把握し、その場に応じた対応ができる。                       | p.48～49 |
| ①犯罪にあった後の子どもの心理現象の具体例や、適切な対応について知っている。（フラッシュバック現象など）  | p.48～49 |
| ②精神的、肉体的なダメージについて、その種類や適切な対応について知っている。（身体的虐待やネグレクトなど） | p.48～49 |
| ①学校や警察への通報の方法を知っている。                                  |         |
| ②地域の人や保護者に、警察への不審者の通報ができるように指導できる。                    |         |
| ③地域の警察が行っている巡回の時間、経路、目的を把握している。                       |         |
| ①緊急時の対応策を知っている。                                       |         |
| ②緊急時に必要な連絡体制を整えることができる。                               |         |
| ③地域の学校や警察との連絡調整ができる。                                  | p.34～35 |
| ④危険箇所の改善を関係機関へ要請・要望することができる。                          | p.34～35 |
| ①子どもとふれあう機会や場を設ける方法の具体的な事例を知っている。                     |         |
| ②地域住民から、防犯に関する情報の収集、不安に関する意見の聴取ができる。                  |         |
| ③地域の防犯担当（警察生活安全課・学校・自治会など）と情報交換ができる。                  | p.34～35 |
| ④近隣の地域との連絡調整の方法を知り、情報伝達や情報交換ができる。                     |         |
| ①防犯パトロール（「子ども見守り隊」など）の目的や効果、留意点について説明できる。             | p.14～15 |
| ②登下校時に合わせての立ち番や巡回活動の重要性について指導できる。                     |         |
| ③パトロール中に事件が発生した場合の適切な対処方法を説明できる。                      | p.14～15 |
| ④防犯ボランティアのジャンパーや腕章などを身につけることの長所・短所を説明できる。             | p.14～15 |
| ⑤青色回転灯パトロールについて理解し、説明できる。                             |         |

| 領域      |                  | コード   | 規 準  |
|---------|------------------|---|--|
| 大項目     | 中項目              |   |  |
| 地域活動の推進 | 防犯パトロール          | 41  | b 防犯パトロールを企画・立案し，防犯の実践に取り組むことができる。               |
|         | 防犯教室（学校とは限らないので） | 42  | a 子どもが自分自身で身を守るための方法を指導できる。                      |
|         |                  |   | b 校外での安全管理の取り組みについて問題点を把握し，その改善策を企画・実行できる。       |
|         | 子ども 110 番        | 43  | a 「子ども 110 番の家」の役割とその効果について理解している。               |
|         |                  |   | b 「子ども 110 番」に協力している地域の団体について理解している。             |
|         | 非行防止に関する取り組み     | 44  | a 非行防止に関する取り組みについて理解している。                        |
|         |                  |   | b 保護司と連携した活動を実施できる。                              |
|         | 防犯まちづくり          | 45  | a 地域の特性に応じた環境改善について計画し，取り組むことができる。               |
|         | 防犯組織づくり          | 46  | a 地域の関係機関と連携し，自主防犯組織の結成および自主防犯活動の活性化を支援することができる。 |
| 活動の推進   | 47               | a 地域の防犯活動について，その内容を広めるための方法を理解し，実施することができる。 |  |

## 基準（具体的な内容）

### 防犯指導リーダー（地域で指導できる）

- ①登下校時に子どもを見守る活動を指導，要請できる。
- ②自転車や自動車で巡回する活動を指導，要請できる。
- ③犬の散歩，買い物を兼ねたパトロール活動を指導，要請できる。
- ④「安全マップ」などを活用した活動を企画・実行することができる。 p.26～29
- ⑤防犯ボランティアのジャンパーや腕章などの道具を適切に管理できる。 p.14～15

- ①地域に適した子ども向け防犯標語などを子どもたちに説明できる。
- ②大きな声の出し方を指導できる。
- ③子どもが声かけにあったときの対応について指導できる。
- ④子どもにできる基本的な護身術を指導できる。
- ⑤「安全マップ」などについて説明し，その作成方法を指導できる。 p.26～29
- ⑥危険人物から「逃げる」方法を具体的な根拠を含めて指導できる。

- ①あいさつ運動を実施することで期待できる効果について説明できる。 p.8～9
- ②サイバー犯罪の危険に対して子どもたちへの啓発活動ができる。
- ③不審者に狙われにくい方法を指導できる。
- ④不審者情報をもとに，学校と一緒に子どもへの周知徹底を図ることができる。
- ⑤子どもへの影響を配慮した防犯訓練を考え，実行できる。
- ⑥子どもの心を掴む方法を知っている。
- ⑦スクールガードリーダーやスクールサポーターの役割を理解し連携がとれる。

- ①子ども110番の家の役割を説明できる。 p.40～41
- ②子ども110番の家の効果や具体的な活動について説明できる。 p.40～41
- ③地域の子ども110番の家の実数，場所，実態などを把握している。 p.40～41

- ①子ども110番に協力している地域の団体などについてその内容と役割を説明できる。 p.40～41

- ①非行防止に関する取り組みについて具体的な事例を説明できる。 p.46～47
- ②喫煙，飲酒，ドラッグなどの危険性について具体的に指導できる。

- ①保護司の役割について説明できる。
- ②保護司と連携し，非行防止活動を実施できる。

- ①不審者が近寄りづらい環境作りに取り組むことができる。 p.30～31
- ②地域の環境浄化と防犯との関係性（割れ窓理論・犯罪機会論など）について説明できる。 p.30～31

- ①防犯活動を行う際に地域に呼びかけ，協力を得ることができる。 p.36～37, p.42～43
- ②近隣の地域の犯罪の状況を理解し，お互いに助け合うことができる。
- ③自分たちの行っている活動を他の人にわかりやすく説明できる。
- ④近隣の校区での防犯教育の取り組み，実践例の情報を把握している。
- ⑤自主防犯組織の立ち上げから活動に至るまでの流れを知っている。 p.36～37

- ①声かけ事案についての事例を挙げることができ，地域に生かすことができる。
- ②防犯活動時の参加者への広報や人集めの方法を知り，実行できる。
- ③民生委員（児童委員）の活動を理解し協力の依頼ができる。
- ④地域に対して，発信が必要な情報と不要な情報の取捨選択ができる。
- ⑤啓発のためのアイテム（服装やシール，ロゴなど）を企画・立案することができる。 p.36～37

| 領域              |            | コード        | 規 準  |
|-----------------|------------|------------|--|
| 大項目             | 中項目        |            |  |
| 人材育成とマネジメント     | 地域における人材育成 | 51         | a 活動を地域全体に広げ、意識を持続させることができる。                                   |
|                 |            |            | b 防犯活動に参加する人材を育成することができる。                                      |
|                 | 組織の運営と管理   | 52         | a 地域住民による自主防犯意識の高揚を図ることができる。                                   |
|                 |            |            | b 地域から信頼され、責任を持って活動できる。  |
|                 | 予算と執行      | 53         | a 地域の防犯活動に必要な経費について把握し、適正に執行することができる。                          |
|                 | 活動への姿勢     | 54         | a 防犯活動に対して積極的に取り組むことができる。                                      |
|                 |            |            | b 正しい倫理観で活動を推進できる。   |
|                 | 防犯指導の情報化   | 防犯に関する情報発信 | 61   |
| サイバー犯罪に関する知識と理解 |            | 62         | a 情報通信ネットワーク上で子どもがどのような犯罪に巻き込まれるかを知り、犯罪が生まれる情報社会の特性について理解している。 |
|                 |            |            | b 情報通信ネットワークの特性を理解し、それらを悪用した犯罪の種類や特徴について説明できる。                 |
| サイバー犯罪への対応      |            | 63         | a サイバー犯罪の予防や正しい対処方法について理解し説明できる。                               |
| メディアを活用した防犯指導   |            | 64         | a 防犯に関する情報入手の手段を知り、活用することができる。                                 |

## 基準（具体的な内容）

### 防犯指導リーダー（地域で指導できる）

|   |                  |
|---|------------------|
| ①防犯意識を高揚，持続するための方法を説明できる。                     | p.42～43          |
| ②あいさつ運動や地域巡回活動などへの保護者の協力依頼ができる。               | p.8～9            |
| ①防犯活動の人員の確保ができる。                              | p.38～39          |
| ②地域での様々な行事などを通して防犯活動の人材を集めることができる。            | p.38～39          |
| ③後継者の育成について計画的に取り組むことができる。                    | p.38～39          |
| ①地域の保護者に対する定期的な研修会や情報交換会を企画し実施できる。            |                  |
| ②学校や教育委員会と協力して，定期的に警察と地域住民，学校との連絡会議を企画し実施できる。 |                  |
| ①防犯活動に積極的に参加し，地域に信頼されている。                     | p.42～43          |
| ②地域の様々な行事に参加し，地域に信頼されている。                     | p.42～43          |
| ①活動に必要な経費などについて，執行管理ができる。                     |                  |
| ②支援事業に申請書や報告書を提出することができる。                     |                  |
| ①地域の防犯や安全に関する事情に興味を持っている。                     |                  |
| ②人の話をよく聴き，共感できる能力がある。                         |                  |
| ③安全教育以外にも地域づくりや街づくり，環境改善などの活動に積極的に参加することができる。 | p.38～39          |
| ①知り得た秘密事項の守秘義務を遵守できる。                         |                  |
| ②日常の行動，態度，服装など品位の保持に努めることができる。                |                  |
| ①地域の情報誌への掲載内容について制作と掲載依頼ができる。                 |                  |
| ②地域住民に対する防犯対策など，各種情報の臨時・定期的な情報伝達ができる。         | p.44～45          |
| ③地域にとって有益な防犯情報をタイムリーに発信することができる。              | p.44～45          |
| ①出会い系サイトの実態と危険性について説明できる。                     | p.50～51          |
| ②ネットオークションなどでのトラブルについて具体的な事例を説明できる。           | p.50～51          |
| ③掲示板やメールの特性や，個人情報流出などの危険性について説明できる。           | p.50～51          |
| ④ネットを利用した不正請求についての対処方法を説明できる。                 | p.50～51, p.56～57 |
| ⑤掲示板での誹謗中傷や，メールによるいじめ等の人権侵害について具体的な事例を説明できる。  | p.50～51, p.54～55 |
| ①ネット社会の匿名性や，危険を回避する方法を知っている。                  |                  |
| ②ネット上の商品取引における詐欺行為と，その回避方法について説明できる。          |                  |
| ③ネット上での誹謗中傷への対応策や個人情報の取り扱いについて説明できる。          |                  |
| ④不正アクセスを理解し，不正アクセスを防ぐ方法を知っている。                | p.56～57          |
| ⑤子どもたちを有害情報にアクセスさせない方法を知っている。                 | p.54～55          |
| ⑥認可されていない薬や銃剣などのネット上での販売実態について知っている。          |                  |
| ⑦迷惑メールやネットでのストーカー行為は犯罪であることを理解し，防ぐ方法を知っている。   |                  |
| ⑧子どもがインターネットで巻き込まれやすい犯罪について説明できる。             | p.52～53          |
| ①サイバー犯罪の種類や内容について説明できる。                       | p.56～57          |
| ②警察のサイバー犯罪窓口や消費者センターなどの相談窓口に連絡する方法を説明できる。     |                  |
| ③ネットいじめ等の被害にあった子どもへのアフターケアについて説明できる。          |                  |
| ①子ども向けGPS端末の特性を説明できる。                         | p.54～55          |
| ②携帯情報端末（携帯電話）などを利用したタイムリーな情報伝達の方法を知り活用できる。    | p.34～35          |
| ③防犯に関する情報を活用し，地域の防犯活動に役立てることができる。             | p.34～35          |